

# 水道の将来を 考える



今回は、水道水の水質、水質検査について、水道課・栗田孝一主任技士に話を聞きました。

## 三島市の水道水の水質

——三島市の水道の水源について、教えてください。

9月1日号でお知らせしたとおり、三島市の水道の水源は、大きく分けて2つあります。

上水道は、自己水源である伊豆島田浄水場内にある地下60mの深井戸と、駿豆水道から供給を受けている中島浄水場は柿田川の湧水が水源です。

簡易水道では山中新田取水場と佐野見晴台配水場、佐野見晴台取水場の3カ所にある深井戸が水源です。

——三島市の水道水は、おいしいですね。

市の水道水の原水は富士山に降った雨が地中に浸透し、三島溶岩流を長い年月をかけて通過して

きた天然水です。水質はまろやかな軟水で、適度なカルシウムやマグネシウムなどのミネラルを含み、水の味を損なう「有機物」の量も少ない、新鮮な味わいです。

この原水を浄水場などで塩素消毒することで、水道水として各家庭や事業所に供給できます。

## 水道水の安全確保

——消毒は大切ですね。

市民の皆さんに水道水を安心して飲んでもらうためには、水道法で義務付けられている、水道水質検査計画を毎年策定し、原水と水道水の検査を実施しています。

——どのような検査を行っているのですか。

市内の14カ所の蛇口から採取した水を検査しています。検査内容は、毎日の検査が義務付けられている色、濁り、消毒の残留効果や味、臭気の各項目です。水道基準項目と、原水指標菌検査は毎月実施しています。

これ以外にも、水道法で定めら



▲水質検査の様子

れている水質基準全項目と水質管理上留意すべき水質管

理目標設定項目や、水質管理上必要な項目について、給水栓4カ所から採取し、法定では年1回のところ、市独自検査1回を加え、年2回の検査を実施しています。

水質検査結果に応じ、臨時検査の実施や、計画を見直すなど、水質の管理に万全を期しています。

——水質検査は、市で行っているのですか。

日々の検査は市が行っています。毎月および年2回実施している検査は、必要な認証を取得している検査機関に委託などをして、信頼性を確保しています。

——水質検査計画や、検査結果は、誰でも確認することができますか。

はい。市役所水道課（中央町別館1階）および市の情報公開コーナー（本館1階）で閲覧できます。また、市のホームページでも公表しています。

▲水道課・栗田孝一主任技士



## 県および2市1町 合同給水訓練

10月20日(木)に、県企業局、三島市、熱海市、函南町の職員が参加して、熊本地震を教訓とした合同給水訓練を開催しました。

県から各市町への送水管が破損し、送水停止になったという想定で訓練です。午前は、日本水道協会と企業局および2市1町が連携し、同協会を通じての情報伝達訓練を実施しました。

また、午後は三島市中島地内の県企業局の駿豆水道中島浄水場で、給水車の進入経路や停電時にも発電機を稼働させ緊急給水栓から給水車へ給水する手順を確認しました。



▶合同訓練の様子

今回は、水道管の工事について、広報しま平成29年1月1日号に掲載します。  
問合せ 水道課 (☎983・2659)

## 山中城跡の出土資料 —武器・武具—

現在、郷土資料館では、富士沼津・三島3市博物館共同企画展の第一弾として、企画展「駿東・北伊豆の戦国時代―北条五代と山中城―」を開催中です。今回は企画展展示資料の中から、山中城跡より発掘された武器・武具を紹介いたします。

箱根西麓の山中新田に位置する国指定史跡山中城跡は、小田原に本拠をおく戦国大名北条氏が、西から進入する敵軍を食い止めるために築いた山城の跡です。北条氏の重臣松田憲秀のいとこである松田康長が、城の守りを任されていました。天正十八年（一五九〇）北条氏討伐に乗り出した豊臣秀吉の軍勢によって、攻め落とされてしまいます。この戦は、「山中城の戦い」と呼ばれています。

発掘調査により、山中城跡から、この「山中城の戦い」でも使用されたかもしれない武器や武具が見つかっています。

①は鎧の一部です。鎧のうち、腰から太ももにかけてをガードする部位を「草摺」と呼びます。写真はその草摺を構成する部品です。皮もしくは薄い板の上に布を貼り、その上に赤漆を塗ったものです。



▲①草摺

草摺は、各部品の上下に穴をあけ、紐を通して連結させるのですが、①の場合、上側にしか穴が開いていないことから、草摺の最下段の部分に使われた部品だったことがわかります。

②は「筭」と呼ばれるもので、刀の鞘部分にセットして持ち歩いた道具です。筭というは、女性の髪飾りのイメージがありますが、髪飾りとして用いられるのは江戸時代以降のことです。それ以前は、頭の痒いところをかいたり、長い

髪の毛をまとめ上げたりする男女共通の道具でした。刀の鞘には筭をセットするための切り込みなどがあり、いつでも使えるよう、携行していたようです。持ち手部分に花の形の彫刻や、金メッキなどが施されていて、当時の人々の趣向が表われています。



▲②筭

このほかにも、戦国時代の戦場において、武器の主流であった鎧の穂先の部分、投石に使われたのであろう石つぶてなど、「山中城の戦い」の景観が想像されるような資料を多数展示しています。

企画展は、平成二十九年一月二十二日(日)まで楽寿園内郷土資料館で開催中です。ぜひご覧ください。



▲鎧の各部分の名称



### 三島の村名② 中島―その二― (中郷地区) 左内神社

中島にある左内神社は、隣接する梅名の右内神社とともに三嶋大社の御門の守護神とされ、三嶋大社と同様に武士からの崇敬が厚かったと伝えられています。詳しい由緒などは不詳ですが、平安時代に成立した『延喜式神明帳』に記載されている文梨神社（父梨神社とも）が現在の左内神社であると推測されています。



▲左内神社跡（中島）

その名の通り、かつては中島の集落を南北に貫く三嶋大社の参道でもある旧下田街道の東側（三嶋大社から見て左側）にありました。隣の中集落にある手無地藏堂あたりの森にあったとも言われており、「父梨」が縮まって「手無」となったと考えられています。その後、現在の中島浄水場付近に鎮座しましたが、火災により明治20年（一八八七）に旧下田街道西側の現在地に移転しました。